

札幌市立北野小学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

4階にある図書館に続く階段。その踊り場に貼られた司書さんが書いた筆字の掲示に「本はともだち うれしいとき さみしいとき かなしいとき いつもきみのそばにいる ともだち」とある。いつも児童のそばにある本を提供する本校の図書館は、司書さんやボランティアさん等地域の皆さんが学校に寄り添ってくださることで成立している。

その取組をより価値あるものとするために、今年度は、「地域と学校が協力して、推進する豊かな読書活動」をテーマとして取り組んだ。小学生が本に親しみ、自らの読書活動を身に付ける歩みを豊かな読書活動と捉え、その実現を目指した。

2 取組内容

(1) 1年生に読書の楽しさを伝える

①初めての図書館体験

5月12日、6年生からの終わった1年生が、図書館に招待された。借りた本を入れる手提げ袋を小脇に抱え向かった広い小学校の図書館は、まるで本屋さんようであった。「早く借りたいな」「どうやったら借りられるの」子どもの気持ちに沿って簡潔な説明の後、いよいよ貸出が開始された。



新しい1年生のために登録者が全員揃った読書ボランティアさんも、やる気満々の1年生の姿にうれしそうであった。場所や借り方を教えてくれるだけではなく、本選びの相談にもどんどん答えてくださっている。

②読書経験が少ない子に光を当てて

1年生の担任は、最近の児童の傾向として読書経験には個人差が大きいと感じており、テレビだけではなく、ゲームや携帯電話等、様々なツールが誰でも簡単に使える現在において、読書経験が少ない子も多い。



そのため、初めての図書館体験を大切にしたいと考えた。自分の読みたい本がないという悩みに答えてくれるボランティアの存在が、今後のその子の豊かな読書活動の出発点になると考えられる。悩みながらも1冊を見つけられた1年生児童から、うれしそうな笑顔が見られた。

また、人とのふれ合いの中で学ぶ姿があった。「〇くん、動物が出てくる本が好きなんですって」と、担任とボランティアさんとの会話も子どものことを語り合って弾んだ。小学校での読書活動の出発点である、この活動の大切さが実感できた日であった。



(2) 他学年での読書活動の広がりや深まりに繋げる

① 読み聞かせ活動の継続

本校では、毎週水曜日 8 時 25 分～35 分を読み聞かせの時間として、全学年を対象に読書ボランティアが読み聞かせ活動を行っている。

教室では、可愛らしい低学年が床にシートを敷いて座り、一生懸命語りに耳を傾けている。高学年の教室でも、椅子に座り学級全員が静かに聞き入っている。

耳から入ってくる物語の言葉一つ一つをしっかりと理解しようと聞くことは、心の落ち着きや学びの高まりとなる貴重な経験につながっている。

毎週月曜日の自分で本を選んで読む読書の時間と、二つが組み合わさることで、さらに豊かな読書活動の広がりが繰り広げられている。



② お話に浸るお楽しみ会

開放図書館の名前を冠した「あいほんお楽しみ会」は、11月2日に全校児童を集めて体育館で行われた。児童委員会による読書週間の取組の発表の後、読書ボランティアによる大型紙芝居「どんぐりと山ねこ」が上演された。

プロ顔負けの演出に児童は感動し、お話というもののおもしろさを改めて感じていた。「びっくりした」「楽しかった」とそのまま味わう低学年、「学習発表会の参考にします」と感想を綴った高学年、それぞれ違いはあっても物語に浸り、豊かに学んでいた。



3 成果と課題

(1) 成果

開放図書館がある学校では、本校のような取組が繰り広げられているところも多い。その中で活動の価値や意味付けを明確にして、関ってくださる方々に返していくことができた。豊かな読書活動を目指して取り組み、実際に読書量も増え、子どもが育ってきていることが大きな成果である。また、1年生から6年生に至るまでの読書の歩みに目を向けて取り組み、まずは1年生での取組を実践できたのも成果である。



(2) 課題

本校では、他にも児童委員会による読み聞かせ、ボランティアによる休み時間読み聞かせ、職員による全校読み聞かせ等、たくさんのメニューを実践している。これらの系統性やつながりを明確にしてより効果的なものにしていくことが必要である。

